

作家・生物学者 畑正憲さん インタビュー

仙台市内で開かれた講演会の終了後、畑正憲さんの楽屋を訪問。動物との関わり、数えきれないほど訪れている海外、趣味の料理など、畑さんは終始マイペースで話してくれた。
(5面に関連記事)



1週間前にブラジルから帰国した畑さん。「今年はまだ、(家がある)北海道に帰っていない」という多忙中、インタビューに対応してくれた

profile

畑 正憲 (はたまさのり) 81歳

1935年4月17日、福岡市生まれ。東大卒業後、学研で記録映画製作に関わり、その後作家として独立。動物との共棲(きょうせい)を目指して北海道に移住し「ムツゴロウ動物王国」を建国。テレビ番組「ムツゴロウと愉快な仲間たち」で一躍有名となり、世界中を旅し、さまざまな動物たちを見聞した。作家にとどまらず、映画監督、画家、ダイバー、棋士、草競馬騎手など幅広く活躍する。

楽しみ、悲しみ、大変なこと 全部ひっくりくるめて生きるのが好き

動物の秘密知りたい

「畑さんといえば動物をイメージする方が多いと思いますが、動物と関わるようになったきっかけは？」

自分が動物になりたいと思っただけです。犬になっちゃいたい。そうしたら、犬が自分たちの秘密を話してくれるんじゃないかと思いました。最初は秋田犬と一緒に暮らしまし

た。犬は日本語が分かるんですよ。

「そうそう、僕は象のおっぱいを吸ったことがあるんです。あれは面白かったですね。」

「世界各国を訪問して、特に気に入っている国や場所がありますか？」

「どこの国に行っても面白い。どこが一番面白いのはいらないですね。」

「1週間前にブラジルから帰ってきました。親し

くしていた友人が他界したためです。日本人には一人も会わず、通訳も付

けずにね。ブラジルの片田舎の小さなホテルに泊まって、友人を見送って

きました。海外に行くのに体力、気力を使うと思いますが、

普段から健康面で気を付けていることはありますか？」

「海外に行くとき日本より体力がいるという人は、

海外に慣れていないから。まずはどこへ行って、

ちゃんと食事ができればいい。あとは早起きて、動き回って、夜はいつも

通り寝ればいい。どこへ行っても、日本とほとんど

変わらないんです。僕なんかはね、例えば

ブラジルだったらフェイジョンっていう豆料理を

ソースで調味して食べる。こんなおいしいものはないです。現地の食事を普通に口にしますからね。」

長期滞在時は自炊

「趣味の一つが料理ですが、どんな時に料理をしますか？得意料理は？」

「プライベートでの長期滞在では台所付きのホテルを借りて、毎日現地のスーパーマーケットに行き、食材を仕入れて自分で料理します。何でも作るから、得意料理っていうのはないです。」

「北海道の家には女房がいるから、料理はお任せ。久しぶりに帰って、僕が料理するわけにはいかな

いでしょ(笑)。「食べるのが好きだそうですね。」

「ただね、年を重ねた今はたくさん食べられない。例えば、コンビニのおに

ぎりは1回で1個食べられなくなつたの。3回に分けて食べています。サプリメントってある

でしょう。あれ、僕はど



「2017 いきいきシニア初春のつどい」で講演

うかと思つたんですよ。ピタミンCを取りたいからってサプリメントを飲むなら、野菜を食べた方がよっぽどいい。サプリメントに比べて野菜はたくさん食べなきゃいけない。無駄をしなきゃいけない。それが素晴らしいんです。その無駄が体に入ると、その中から必要なものだけ吸収してもら

うことが大切なんですよ。「好きな食べ物は？宮城はホヤやカキが特産です。ホヤは刺し身で食べますよ。焼いてもいいですね。パスタにしてもおいしい。カキは生のままで、バルサミコ酢をかけるとおいしいですよ。」

「作家や画家などさまざまな仕事をしながら、各地で講演も行う忙しさ。元気の秘訣(ひけつ)は？」

「生きてることが好きなのかな。生きていると楽しい。でもそれだけじゃなく、悲しいことも大変なことかもしれないあるじゃない。そういうのを全部ひっくりくるめて、生

きているのが好きなんです。